

# 2008年度(2009年3月期) 第1四半期 決算説明会



2008年7月30日  
大正製薬株式会社  
副社長 大平 明

# 2008年度第1四半期：決算概要



(億円)

	07年度 1Q	08年度 1Q	対前年同期 増減	
売上高	569	619	+50	+9%
SMG*	347	386	+40	+11%
医薬事業	222	232	+10	+4%
営業利益	82	116	+35	+43%
経常利益	98	124	+26	+27%
四半期純利益	60	77	+17	+28%

注：数字は億円未満四捨五入

\*SMG：セルフメディケーション事業

# 2008年度第1四半期：国内市場の動向



## セルフメディケーション事業

- 一般用医薬品市場：前年同期比 ▲1%  
(店頭売価ベース)
  - － 市場として伸長したのは、漢方薬、鼻炎治療剤など
  - － ドリンク剤、ミニドリンク剤(長雨など天候が影響)、  
滋養強壮保健剤、総合感冒薬等は前年割れ
  - － 新製品群は市場に貢献

## 医薬事業

- 医療用医薬品市場：前年同期比 +2%
  - － 経口抗菌薬：▲8%、注射抗菌薬：▲7%

(IMSデータ薬価ベース)

Copyright 2008 IMSジャパン(株)  
IMS JPM 2008年4-6月 MAT  
無断転載禁止

# 2008年度第1四半期：決算概況



- 売上高はほぼ計画通りの進捗

## セルフメディケーション事業

- リポビタンシリーズはリポビタンDがやや苦戦したが、シリーズ品でカバー
- パブロン、リアップなどの主力ブランドは新製品効果もあり、堅調に推移

## 医薬事業

- 薬価改定の影響はあったものの、ほぼ計画通りに推移

- 利益は増益：費用は抑え気味

# 2008年度1Q : ブランド別売上高



(億円)

	売上高	前年比	
リポビタンシリーズ	197	▲1	リポDの落ち込みをシリーズ品でカバー
パブロンシリーズ	43	+11	新製品パブロンエースAXが寄与
リアップシリーズ	28	+7	新製品リアッププラスが寄与
胃腸薬	10	+1	年末品から通年品への取組強化
ゼナシリーズ	10	+1	医薬部外品F-0シリーズが好調
リビタシリーズ	7	+1	グルコケア粉末スティックが好調
クラリス	57	▲4	計画通り
パルクス	29	▲1	計画通り
ロイヤルティ	12	+8	ファイザー マイルストーンフィー含む

注: 数字は億円未満四捨五入

# 2008年度1Q：売上高・利益の増減要因



<p>売上高 (+50億円)</p>	<p><b>セルフメディケーション事業 (+40億円)</b>                  OTC薬等* +24億円                  リビタシリーズ +1億円                  海外ドリンク ▲1億円                  ビオフェルミン分 +14億円</p>	<p><b>医薬事業(+10億円)</b>                  大正富山医薬品 ▲2億円                  ロイヤルティ収入 +8億円                  中間製品等 ▲3億円                  ビオフェルミン分 +8億円</p>
<p>営業利益 (+35億円)</p>	<p>売上総利益**は37億円の増加                  (売上総利益率**は 67.5%→68.0%に改善)                  販管費は2億円の増加                  内訳 研究開発費 +4億円      販促費 ▲4億円                        広告宣伝費 横ばい        人件費 +4億円                  ビオフェルミンののれん償却費は2億円</p>	
<p>営業外損益:持分法投資損益は11億円悪化 (前年同期の▲1億円→▲12億円)                  特別損益:過年度損益修正益 9億円</p>		

\*ビオフェルミン分を除く \*\*返品調整引当金繰入・戻入調整後

# 2008年度：連結業績予想



- 業績予想は変更しない

(億円)

	2Q累計予	前期比	通期予	前期比
売上高	1,240	+3%	2,520	+1%
SMG*	806	+7%	1,611	+6%
医薬事業	434	▲4%	909	▲6%
営業利益	150	▲22%	330	▲11%
経常利益	165	▲27%	375	▲10%
当期純利益	95	▲33%	225	▲10%
EPS(円)	31.95		75.67	
(参考)				
大正富山医薬品売上高	365	▲9%	770	▲6%

注：数字は億円未満四捨五入

\*SMG：セルフメディケーション事業



# 連結業績予想：補足資料

- 販管費が第2四半期の3ヶ月が通常レベルより高くなるため、3か月ごとの利益変動が大きい
- 主な販管費項目の第1四半期、第2四半期の比較は下表のとおり

(億円)

	1Q	前年同期 増減	2Q	前年同期 増減	対1Q 増減	2Q累計
研究開発費	58	+4	85	+30	+28	143
広告宣伝費	35	0	47	+20	+12	82
販促費	52	▲4	72	+8	+21	124

- 研究開発費：導入品目に関する支払い
- 広告宣伝費：シガノンCQ、ドリンク剤等の宣伝
- 販促費：シガノンCQ、ドリンク剤キャンペーン等



# 第2四半期以降の動向



- ・ **セルフメディケーション事業**

- 禁煙補助剤シガノンCQを7月1日に発売
- 新製品の承認・発売
- 販売制度改正に向けた動き

- ・ **医薬事業**

- 注射用抗菌薬ゾシン(YP-18):7月16日承認、大正富山医薬品で発売準備中

# セルフメディケーション事業：新製品



- シガノンCQ(禁煙補助剤):7月1日発売
- 腔カンジダ再発治療薬(抗真菌剤)が承認された

赤文字: 発売済みの製品

<p>&lt;第1四半期&gt; カフェイン180(食品) 漢方シリーズ(テスト販売) など</p>	<p>&lt;第3四半期&gt; パブロンシリーズ リビタシリーズ リポビタンシリーズ など</p>
<p>&lt;第2四半期&gt; シガノンCQ アルフェネオ 通販(ダイエットサポートドリンク) 腔カンジダ再発治療薬 など</p>	<p>&lt;第4四半期&gt; 外用剤 リビタシリーズ 内服剤 など</p>

# 医療用医薬品：新薬パイプライン(1)



(2008年7月29日現在)

	製品特長 薬効・適応症	開発形態	オリジン
申請中			
クラリス錠200 (経口)	マクロライド系抗生物質 非結核性抗酸菌症(肺感染症) <適応追加>	アボット ジャパン 共同	大正製薬
フェーズ3			
CT-081* (経口)	活性型ビタミンD誘導体 骨粗鬆症	中外製薬共同	中外製薬
フェーズ2/3			
CT-064 (注射)	ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ

\*CT-081: 中外製薬における開発コードはED-71

# 医療用医薬品：新薬パイプライン(2)



(2008年7月29日現在)

	製品特長 薬効・適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2			
NT-702 (経口)	閉塞性動脈硬化症、腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行	日産化学共同	日産化学
TT-063 (外用)	変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	トクホン共同	トクホン
CT-064 (経口)	ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
NT-702 (経口)	気管支喘息	日産化学共同	日産化学
TS-033 (経口)	1 & 2型糖尿病	自社	大正製薬
TS-022 (外用)	アトピー性皮膚炎に伴う掻痒症	自社	大正製薬
パルクス (注射)	腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行 <適応追加>	自社	大正製薬／ 田辺三菱製薬